

特別支援教育研究論文集

—令和3年度 特別支援教育研究助成事業—

研究協力：独立行政法人国立特別支援教育総合研究所

知的障害特別支援学校における各教科で育成を目指す
資質・能力を育むための授業づくり
—授業モデル作成を通して—

研究代表 佐藤 貴宣
(東京都立久我山青光学園)
研究代表 辰巳 大雅
(京都府立宇治支援学校)

令和4年3月

公益財団法人みずほ教育福祉財団

要旨

筆者は、2019年度国立特別支援教育総合研究所の実施する特別支援教育専門研修（知的障害教育コース）に参加した。研修後、「知的障害教育における育成を目指す資質・能力を育むための授業づくり」について授業実践を通して学ぶ勉強会を実施している。勉強会では、知的障害特別支援学校における授業づくりについて、「学習指導要領が示す目標や内容と実際の指導内容の関連」、「個の実態に応じた目標設定や観点別学習評価」などが度々話題に挙がり、課題に感じていた。そのため、本研究では、「知的障害特別支援学校における各教科で育成を目指す資質・能力を育むための授業づくりー授業モデル作成を通してー」と主題を設定し、研究を進めることとした。

平成29年に告示された特別支援学校学習指導要領（高等学校は平成30年告示、及び特別支援学校高等部は平成31年告示：以下これらを「新学習指導要領」）では、小・中学校等との学びの連続性が重視され、知的障害特別支援学校の各教科の目標・内容について、育成を目指す資質・能力の三つの柱に基づき構造的に示された。また、小・中学部の各段階において、教科の目標に基づき、各段階の目標が新たに示され、内容も拡充した。

本研究では、知的障害特別支援学校における授業づくりにおいて、必要な構成要素を明らかにし、「教科別の指導」及び「各教科等を合わせた指導」の事例を基に、授業づくりのプロセスを提案することを目的として、一木（2018）をはじめ様々な知見を参考にしながら、授業づくりを行い、二つの事例を通して検証した。

A特別支援学校で実施した「国語科」の指導では、児童が、同じ小学部の段階の内容を扱うことができても一人一人の実態が異なるため、適切に評価するためには、段階別の目標ではなく、個別に対応した単元目標を設定する必要があることが分かった。また、国語科の「A 聞くこと・話すこと」、「B 書くこと」、「C 読むこと」の、どの領域に焦点化した目標であるかを考え、目標を設定することで、目標に応じた手立てを講じることができ、「指導と評価の一体化」につながる事が分かった。

B特別支援学校で実施した「生活単元学習」の指導では、各教科等を合わせた指導においても、児童の各教科の学習状況を把握し、単元で取り扱う教科について、整理し、教科ごとの個々の学習状況に応じた指導目標の設定が必要であることが分かった。育成を目指す資質・能力をバランスよく育むために、「知識及び技能」と「思考力、判断力、表現力等」を関連させて指導する必要があることや、設定した指導目標を達成するために、単元の途中であっても学習集団の在り方等の検討が必要な場合があることも分かった。

A特別支援学校及びB特別支援学校の各実践から明らかになったことや、外部講師からの助言を踏まえ、修正版の単元計画を作成し、授業づくりのプロセスと各過程で検討すべきことを明確化した。今後は、提案した授業づくりのプロセスに沿って単元指導計画を作成し、授業を実施し、「育成を目指す資質・能力を育むことができたか」を検証していくことが必要である。

また、各教科の内容の習得状況や既習事項を確認するため、個別の指導計画を活用して学習状況を把握し、授業づくりに活用したり、「最適な指導の形態」を選択できるための方略（指導形態の選択した時期や手続き、及びその理由等）について、検討したりしていく必要がある。

キーワード：知的障害 学習指導要領 授業づくり 育成を目指す資質・能力 学習評価